平成 19 年度　事業報告書

（平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで）

【実施方針】

１　生涯学習関連機関との連携、ネットワークを構築することを通して、市民ニーズを踏まえた事業展開を図る。

２　市民参画を進め、市民による市民のための学習活動を支援する。

３　財団が有する専門性・柔軟性を生かしながら、効率的・効果的な事業運営を行う。

【事業報告】

１　学習機会提供事業

（寄附行為第 4 条第 1 号に掲げる事業）

（目　的）　施設機能を有効に活用するとともに、市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、市民の多様化した学習ニーズに対応した機会を提供する。

（効　果）　学習機会の質的・量的拡充が図られることにより、受講者層が拡大し、市民の生きがいづくり、社会参加が促進された。

（支出額）　21,175,838 円

（１）　さっぽろ市民カレッジ

年３期（平成 19 年４〜８月、９〜12 月、平成 20 年１〜３月)、15 歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、文化・教養系、市民活動系、産業・ビジネス系の３つの系を柱に、年間 215 講座を実施した。

文化・教養系は、学習活動の入門編としての趣味・教養講座をはじめ、実用的内容の講座や現代的課題（社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために人々が学習する必要のある課題）の解決に資する講座、「さっぽろ」を多角的に学ぶ講座など、幅広い分野で実施した。

また、高い市民ニーズを受け、コンピュータ関連講座のカリキュラムを改善し受講機会の拡大を図った結果、講座数・受講者とも昨年度から大幅に増加した。

市民活動系、産業・ビジネス系においては、リカレント教育を中心に段階的・継続的な学習機会の提供を目的とした講座を実施した。

【実績】全 215 講座

（市民活動系 19 講座／産業・ビジネス系 11 講座／文化教養系 185 講座）

受講者数 4,835 名／修了者数 4,347 名

学位取得者 :「学士号」４名、「修士号」６名、「博士号」３名

学位取得者累計 :「学士号」36 名、「修士号」23 名、「博士号」12 名

（２）　ジュニア・ウィークエンドセミナー

主に小学校高学年及び中学生を対象に、週末の土曜日を親子で有意義に過ごすための学習機会として、施設機能を活かした講座を実施した。

ア　札幌市生涯学習センター

札幌市からの委託を受けて、様々な分野の体験・実践型の講座や、生涯学習センターの施設機能を活用したパソコンや料理の講座を、他の関連団体とも協力し、それぞれ毎月１回程度土曜日あるいは日曜日に実施した。

【実績】

「体験･実践教室」	受講者数 204 名
「親子クッキング教室」	受講者数 169 名
「親子パソコン教室」	受講者数 300 名

イ　札幌市青少年科学館

理科系知識の啓発を目的として、主に、毎月１回土曜日に、実験・工作等の事業を札幌市教育委員会と共催で開催した。

【実績】参加者数 595 名（年 27 回実施）

（３）　生涯学習関連機関等連携事業

ア　ボランティア啓発・交流イベントの開催

博物館や美術館等の生涯学習関連施設で活動するボランティア団体の交流と研修を目的とした「生涯学習ボランティアメッセ 2008 in SAPPORO」を平成 20 年２月に開催した。

【実績】参加団体 14 団体　参加者数 265 名

イ　インターンシップの受入れ　新規

平成 19 年８月末の 10 日間、生涯学習センターにおいて北海道大学から、学生２名の就業体験研修（インターンシップ制度）を受入れた。

ウ　手稲区まちづくり参加・入門教室企画運営業務の受託　新規

平成 19 年度手稲区まちづくり参加・入門教室企画運営業務を受託し、平成 19 年 11 月に同教室を実施した。

手稲区民センターを主会場に、手稲区内で活動している様々な団体・施設と連携しながら、講義・体験学習・ワークショップを織り交ぜた内容で実施した。

【実績】受講者数 19 名

（４）　生涯学習センター施設機能活用事業

ア　舞台操作技術講習会

平成 19 年５〜６月、15 歳以上の市民及び市内勤務者を対象に、基礎レベルの舞台操作技術の習得及び施設利用の促進を目的とした舞台操作技術講習会を実施した。

【実績】受講者数 12 名

イ　バックステージツアー「ちえりあホール探検隊」

平成 20 年２月、小・中学生の親子の市民を対象に、普段見る機会がない「ちえりあホール」の舞台裏や設備に触れる体験をすることで、舞台への関心を高めることを目的に実施した。

【実績】参加者数 13 組 28 名

ウ　市民自立型講座の試行実施　新規

生涯学習センターの空き室を利用した施設活用と学習成果の活用の両方を目的に、「ちえりあ市民講師バンク」に登録している方々や、生涯学習センターでサークル活動を行っている方々を対象に、自ら講座を企画し講師となり、受講生とともに「学びの場」を創出していく新しい学習スタイル「市民自立型学習システム」を平成 20 年２月に試行実施した。

【実績】 開講講座数　９講座　受講者数 162 名

（５）　視聴覚学習機会提供事業

ア　オペラシアター

年６回（平成 19 年５月、７月、９月、11 月、平成 20 年１月、３月）、センターが保有する映像教材（ＬＤ、ＤＶＤ）を活用し、これを鑑賞することで、質の高い芸術への関心が高まるとともに、映像教材や音楽資料等の利用促進が図られることを目的に実施した。

【実績】受講者数 1,241 名

イ　16 ミリ映写機操作技術講習会

視聴覚センターが保有する、16 ミリフイルム教材の利用促進を図るため、年４回（平成 19 年４月、７月、10 月、平成 20 年１月）、15 歳以上の市民（高校生を除く）及び市内勤務者を対象に、視聴覚ボランティアグループ「オンデマンド」の協力を得て実施した。

【実績】受講者数 42 名

（６）　青少年科学館学習機会提供事業

ア　「プラネタリウム祭り」の開催

平成 19 年 12 月に「第２回プラネタリウム祭り」を開催した。プラネタリウム探検・絵本の読み聞かせや詩・音楽と融合させたプラネタリウム等を実施し、プラネタリウム及び青少年科学館のＰＲを図った。

【実績】2,968 名（期間中のプラネタリウム観覧者数）

イ　宇宙セミナー

宇宙科学に携わる研究者を迎え、市民を対象に講演会を開催した。平成 19 年７月に、国立天文台 ALMA 推進室との共催で、石黒正人氏（ALMA 推進室長)、伊王野大介氏（ALMA 推進室研究職員)、徂徠和夫氏（北海道大学理学研究院助教）を迎え、「ALMA で探る銀河と惑星の謎」と題した講演を実施した。

【実績】54 名

ウ　星空の歩き方

青少年科学館の天体観測機器やプラネタリウムを活用しながら、主に、大人を対象として、宇宙・天文についての知識を深めるための講座（年３期各６回）を開催した。

【実績】１期 (平成 19 年５月〜７月)　37 名
２期 (平成 19 年９月〜１１月)　32 名
３期 (平成 20 年１月〜３月)　33 名

エ　４次元デジタル宇宙シアター

天文に対する興味・関心を喚起するため、平成 19 年 11 月と平成 20 年２月に、国立天文台が開発した４次元プログラムによって立体視できる宇宙空間の映像を、天文指導員の解説を交えて上映した。

【実績】実施回数 74 回　参加者数 3,309 名

オ　大人のための星の学習

初心者を対象に、平成 19 年４月と平成 20 年３月に、天文学習の機会と、実際の星空を観望する機会を提供し、天文科学に対する興味・関心の喚起と天文基礎知識の普及を図るための講座を開催した。

【実績】１回目昼 22 名・夜 29 名

２回目 28 名

カ　親子天文教室

小学生とその保護者を対象に、平成 19 年８月、平成 20 年１月に、天文工作（手作り望遠鏡・簡易分光器）を行い、天文に対する興味・関心を高めることを目的とした講座を実施した。

【実績】１期 42 組 94 名

２期 18 組 41 名

（７）生涯学習センター・青少年科学館二施設連携事業

青少年科学館の専門性と生涯学習センターの立地や施設機能を活かし、小学１・２年生の児童を対象に、ハサミで紙を切り作品を作り上げる技術を身につけることを目的とした講座を平成 20 年３月に実施した。

【実績】参加者数 24 名

２　人材活用育成事業

（寄附行為第 4 条第 2 号に掲げる事業）

（目　的）　市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、学習活動を通して市民活動及びまちづくり活動を担う人材を育成する。

（効　果）　学習活動を通して人材を育成し、その人材が活躍することにより、学習活動⇒学習成果の還元⇒さらなる学習活動、といった学習活動の質的・量的拡充が図られ、 結果として、ボランティア等による市民活動及びまちづくり活動の活性化を支援している。

（支出額）　429,018 円

（１）　学習支援者育成・活用事業

さっぽろ市民カレッジの受講修了者が講座の講師（補助講師）を務めるなど、学んだ成果を積極的に活かす人材の育成と支援を行った。

ア　市民ファシリテーター

ワークショップ関連講座を修了した１名が、今年度の同関連講座の学習支援者として講座に関りながら、学習成果の活用に向けた知識・スキルの研鑽を行った。

イ　ちえりあビデオクルー

平成 19 年度より、市民ディレクター養成講座修了者からなる学習支援者の正式名称を「市民ディレクター」から「ちえりあビデオクルー」と改めた。ちえりあ寄席のＣＭ作りや記録撮影など、センターで行われるイベントに参画したほか、さっぽろ市民カレッジの講座内で、講座運営の補助を担うなど学習支援活動を行った。

（２）　生涯学習指導者研修事業

生涯学習とまちづくりの視点に立ち、地域住民の学習活動及びまちづくりを支援する職員の資質向上と育成を図るための研修講座を実施した。区民センターや地区センター等の施設職員を対象に、事業の企画・立案に関する研修講座を平成 20 年３月に実施した。

【実績】プログラムの企画・立案を学ぶ　参加者数８名

（３）　生涯学習ボランティア育成事業

生涯学習ボランティア（ちえりあ学習ボランティア）に対して、センター職員が講師となり、講座の企画や運営スキルの向上を目的とした研修を年４回実施した。それぞれの研修や、ボランティア同士での学びあいから生まれた成果を実践するため、「さっぽろ市民カレッジ」講座の一部（11 講座）をボランティアと協働で企画し実施した。

また、平成 20 年３月に新たにボランティアを募集し、19 名がボランティア活動に参加することとなった。

【実績】平成 19 年度ちえりあ学習ボランティア登録者数 49 名

（４）　天文指導員の養成

生涯教育の一環として地域における天文普及活動を担う人材を育成するため、市内在住の大学・短大生等を対象に、天文事業への参加や定期研修の実施により天文指導員を養成した。

【実績】登録者数 32 名／修了者数４名

（５）　科学館ボランティアの養成

工作指導などを中心に科学館事業に主体的に参加し、その一翼を担い、自ら知を楽しむとともに他の利用者に楽しさを伝える科学館ボランティアを養成した。

【実績】登録者数８名

３　学習活動支援事業

（寄附行為第 4 条第 3 号に掲げる事業）

（目　的）　市内の関係機関及びサークル・団体との連携を図りながら、情報収集・提供をはじめとして、市民の自主的活動や連携・交流活動を支援する。

（効　果）　学習活動にこれまでかかわってこなかった市民に対しては、きっかけづくりを提供し、学習活動を行ってきた市民に対しては、これまでの学習成果を活かす場を提供することができ、生涯学習活動の底辺が広がった。

（支出額）　13,910,502 円

（１）　メディアプラザ運営事業

講座・サークル等の学習機会情報の提供、図書の閲覧・貸出、音楽・映像資料の視聴、インターネットによる情報検索サービスなど、市民の学習活動を支援するメディアプラザの運営を行った。

【実績】メディアプラザ利用者数　50,564 名

（２）　生涯学習情報収集・発信事業

ア　さっぽろ生涯学習ネットワーク情報Ｓá :〔サア〕の発行

生涯学習関連施設・団体が実施している学習機会の情報を一覧で提供する情報誌を発行した。

【実績】年３回発行（平成 19 年４月、８月、12 月）計 21,000 部

イ　ＩＴ機能（ホームページ等）の活用

魅力ある情報や機能を追加した新ホームページを活用し、積極的な情報発信を行う一環として、ブログを利用した学習情報の提供として「ma-navi(マーナビ)」の運用を行った。

【実績】情報提供団体 37 団体

（行政関係機関、大学・短期大学・専修学校、カルチャーセンター等）

（３）　生涯学習普及啓発事業

ア　ちえりあフェスティバル　（８月実施）

市民との交流を深めながら生涯学習の普及啓発を図ることを目的として、生涯学習総合センターを会場に、ちえりあフェスティバルを３日間に渡り開催した。

(ｱ)　生涯学習センター主催行事

ちえりあ学習ボランティアの企画運営による、手品・紙芝居などの「芸」自慢イベントや、書道・パッチワーク・太極拳サークルなどの体験教室を実施した。

(ｲ)　青少年センター主催行事

青年スタッフが企画・運営を行い、屋外でステージ発表や屋台などのイベントを実施した。

(ｳ)　教育センター主催行事

親子を対象に、レモンリーフを用いて「しおり」になる葉脈標本を作成するなど、身近なものを使った実験や工作等のイベントを実施した。

(ｴ)　リサイクルプラザ主催行事

環境をテーマに、おもちゃ修理コーナーや危険ゴミの展示、生ゴミの堆肥化相談コーナーなどを実施した。

(ｵ)　各施設連携行事

各施設の特徴を活かしながら複合施設としての一体感を出すため、各施設が連携して食器洗浄車の実演や館内中継を実施した。

【実績】３日間延べ参加者数　14,884 名

〔内訳：生涯学習センター関係 5,897 名／青少年センター関係 7,600 名／
教育センター関係 99 名／リサイクルプラザ関係 1,288 名〕

イ　サークル発表会（11 月実施）

平成 19 年 11 月に、ちえりあ及び札幌市内の区民センター等で活動している舞踊やコーラス等のサークル団体が、学習成果を発表する場として、ちえりあホールにてサークル発表会を３日間にわたり開催した。

また、サークル発表会に併せて、11 月 20 日から 26 日までの７日間、絵画・書道・パッチワーク等の工芸部門の 13 サークルが参加し、作品展示を行った。

【実績】参加団体数 52 団体（608 名）　来場者数 1,797 名

（４）　共催事業

ア　札幌市中学校 私たちの科学研究発表会 (共催：札幌市中学校文化連盟)

平成 19 年 11 月に、市内中学校の科学クラブを対象に、研究活動発表会を開催した。

【実績】参加校数 14 校 278 名

イ　科学技術週間事業「科学映画会」(共催：日本科学技術振興財団)

平成 19 年５月に、科学技術週間協賛事業として科学技術映像祭の入選作品を上映した。

【実績】入場者数 271 名

ウ　青少年のための科学の祭典札幌大会（共催：日本科学技術振興財団他）

平成 19 年９月に、中高生を中心とした出店形式による実験や工作を行った。

【実績】参加者数　2,715 名

エ　中学校校内放送コンテスト（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成 19 年７月に、札幌市内の中学校の校内放送局員が制作した放送番組と各放送局で活動するアナウンサーの放送技術に関するコンテストを開催した。

【実績】参加校数：７校 50 名

オ　中学校校内放送技術講習会（共催：札幌市中学校放送教育研究会）

平成 19 年８月、平成 20 年 1 月の年２回、札幌市内にある中学校の校内放送局員の技術向上を図ることを目的とした講習会を実施した。

【実績】８月　参加校数：10 校 60 名／１月　参加校数：６校 20 名

カ　日本映画名作祭 2007（共催：札幌映画サークル）

東京国立近代美術館フィルムセンターが保有する貴重な日本映画フィルムの提供を受け、「日本映画」名作４作品を２日間（平成 19 年 11 月）にわたり上映した。開催にあたっては、札幌映画サークルの協力を得て、両者による実行委員会形式で実施した。

【実績】入場者数 1,246 名

上映作品「酔いどれ天使」「羅生門」「生きる」「天国と地獄」

キ　市民メディア全国交流集会＠北海道 07

新規

（共催：市民メディア全国交流集会＠北海道実行委員会）

平成 19 年９月に、第５回目となる標記全国集会を開催した。

これは、インターネットやコミュニティＦＭ等の市民の情報発信（市民メディア）の研究者や学生、実践者の全国的なネットワークづくりや、そのあり方を考えることを目的に実施した。

【実績】参加者 442 名

（５）　視聴覚教材利用促進事業

年６回（平成 19 年４月、６月、８月、10 月、平成 20 年１月、２月）、視聴覚センター所有のフィルムを活用した「ちえりあ映画会」を開催した。さらに、７月には、６月上旬に上映し好評だった「愛の黙示録」のアンコール上映を実施した。

【実績】入場者数 3,103 名

（６）　文化振興事業

地域に根ざした芸術・文化の振興を図るために落語芸術協会の協力を得て「ちえりあ寄席」等のイベントを開催した。

ア　ちえりあ寄席

市民が日本の伝統芸能文化である「落語」に親しみ、生涯に渡って楽しむ機会を提供するとともに、それを支える市民の育成と文化力を高めるため、平成 19 年８月に本格的な寄席として「ちえりあ寄席」を開催した。

【実績】４公演　1,509 名

イ　「落語」学校鑑賞会

生涯学習センター近郊の小学校の児童（４年生以上）を学校単位で無料招待して、寄席太鼓の実演や解説、曲芸などを交えた、参加体験型の落語鑑賞会を開催した。

【実績】４公演　1,021 名（発寒西小、手稲東小、西園小、西小）

ウ　市民演芸祭～真夏のどっかん！笑いもん市　新規

平成19年７月に、学生サークルやアマチュア落語家、素人演芸愛好家、演芸集団が出演する手作りの市民演芸祭をカルチャーナイト2007と連動する形で開催した。

【実績】参加者数　30 名

エ　親子で寄席ちょうちんをつくろう

寄席文化や落語について解説後、地域に密着した笑いの文化を子ども達に伝えるため、寄席ちょうちんの絵付けを指導し、その作品 24 個を寄席期間中にロビーで展示した。

【実績】受講者数　親子９組 19 名

オ　伊藤多喜雄コンサート in ちえりあ　新規

日本各地の唄探しの旅　～西区の歴史と歩みの夕べ～

民謡歌手の伊藤多喜雄氏と、西区の歴史や伝統芸能を再発見する地域参加型のコンサートを平成 19 年 10 月に開催した。

【実績】１公演　210 名

カ　施設を活用した作品展示等の実施

市民の様々な芸術や文化活動の発表の場として、生涯学習センターロビー等を活用したイベントを定期的に実施した。

(ｱ)　ちえりあ-幼稚園児のお絵かき展　新規

児童の学習活動の発表の場として、平成 19 年度より社団法人札幌市私立幼稚園連合会との共催により、毎月１週間、市内の私立幼稚園児による絵の作品展示を行った。４月 19 日にオープニングセレモニーを実施し、16 園が参加した。

(ｲ)　さっぽろ市民カレッジ受講者の作品展示等　新規

平成 19 年７月より、さっぽろ市民カレッジの受講生が描いた水彩画や鉛筆デッサン画、受講生が撮影した写真などの作品を１週間にわたってロビーで掲示する展示会を計７回実施した。

（７）　科学館天文学習支援事業

ア　天文相談コーナー（星のへや）の運営

代表的な天体望遠鏡や参考図書などを常備した天文相談コーナーを設け、天文に興味を持った人の初歩的な疑問に答えた。

イ　天文ホームページ「天文Ｑ＆Ａコーナー」

ホームページにＱ＆Ａコーナーを設け、本で調べることが難しい天文に関する質問の受付と回答を行い、学習を支援した。

（８）　青少年科学館情報発信事業

ア　「天文ニュース・コーナー」による情報提供

青少年科学館１階エントランスホールに「天文ニュース・コーナー」を設け、最新の天文情報を紹介した。

イ　優れた科学技術を有する地域企業の製作品等の紹介

科学技術への興味・関心を喚起し、地域企業への愛着を深めるため、平成 19 年 12 月に、HASTIC（NPO 法人北海道宇宙科学技術創成センター）等の協力を得て、北海道における宇宙開発の最新の情報をブース形式で紹介する事業（宇宙開発屋台村）を実施した。

【実績】観覧者数 2,312 名

４　調査研究事業

（寄附行為第 4 条第 4 号に掲げる事業）

（目　的）　市民の学習ニーズに対応した生涯学習事業のあり方について調査研究する。

（効　果）　生涯学習センターでは市民の学習ニーズを基に、学習の成果を活かした事業のあり方や、事業実施のノウハウを高めることができた。
また、青少年科学館では職員による調査研究報告書をもとに、事業の改善に努めた。

（支出額）　489,230 円

（１）　生涯学習に係る調査研究

IT 学習分野での学習支援制度の立ち上げにむけて、さっぽろ市民カレッジ企画委員と連携し、IT ボランティアによる自主企画講座やその導入・育成を行っている施設を調査研究するため、平成 20 年３月に視察を行った。

その結果を参考として、現在 IT 分野での学習支援についての取組みを進めている。

（２）　科学技術に関する資料の収集

解説の基礎資料、展示物及び展示の改良に資するため、市販の出版物や他施設における発行物等を収集した。

（３）　天文資料の収集

インターネット画像、市販の出版物及び他施設における発行物の収集に加え、科学館天文台、札幌市天文台及び移動天文車を活用して天体写真を撮影し、収録した。

（４）　札幌市青少年科学館職員による調査研究所見等の集約

全職員が、科学・科学技術分野及び館の運営に関する所見・報告を文書により提出し、これを編集した。

５　生涯学習関連施設管理運営事業

（寄附行為第 4 条第 5 号に掲げる事業）

（１）　札幌市青少年科学館の管理運営

札幌市の指定を受けて、科学技術に関する学習機会や体験機会の提供を目的として、札幌市青少年科学館の管理運営を行う。

（展示事業の管理運営、プラネタリウムの管理運営、特別企画の開催、常設イベントや体験イベントの開催）

（支出額）　405,583,936 円

ア　展示事業の運営

(ｱ)　常設展示

展示物を「見て」、「触れて」、現象を「考えてみる」ことができるよう、〈宇宙〉

〈北方圏〉〈原理・応用〉〈マルチメディア〉のテーマを主として、より強い印象が残り、理解しやすい展示物の整備を行った。平成 20 年３月には、体験を通して物体の運動について学ぶことができるよう力学コーナーを全面リニューアルした。

(ｲ)　特別企画の開催

常設展示では伝えきれない科学情報を提供するため、話題性の高いテーマや特定のテーマを深く掘り下げた、体験型展示を中心にした特別企画を、小中学校の夏休みや冬休み等の期間に合わせて実施した。

夏の特別企画「科学戦隊サイエンジャー　緊急指令Ⅱ光の城から救出せよ！」	
趣旨及び概要	生活に身近な「光」の科学をテーマに、体験系展示物・ブース・アトラクションなどを配置することにより、「科学の実験を体験しながら楽しく理解する」ことを目的として開催した。
実施期間	７月 28 日〜８月 19 日（23 日間）
展示構成	「科学戦隊サイエンジャー」というオリジナルキャラクターを全面に押し出し、謎を解いてスタンプを集めるというゲーム性を持たせた形を取り、遊びながら学ぶことができる構成とした。
入館者数	60,050 名

冬の特別企画「大恐竜展 2008〜大空を夢見た恐竜たち〜」	
趣旨及び概要	羽毛を持っていた恐竜と、私たちの生活に身近な鳥の進化の関連 性と謎に迫りながら、「恐竜」を科学的な視野から展示展開し、恐竜と進化の不思議を考える機会を提供した。
実施期間	１月５日〜１月 20 日（16 日間）

展示構成	羽毛恐竜と私たちの生活に身近な鳥の進化の関連性、進化の不思 議を考えさせる構成とした。（羽毛恐竜化石の発掘体験・恐竜の 鳴き声再現・巨大恐竜の足跡比べ・恐竜の卵の化石等を展示展開）
入館者数	52,437 名

(ｳ) 実演・実習・実験等

来館者が科学や科学技術について理解を深められるよう、サイエンスショーやテレビスタジオなど、解説を交えながらの参加形式による実演等を行った。

また、来館者が多い日曜・祝日に、科学に親しみやすい実験や工作会を行った。

サイエンスショー	化学・物理系実験を解説員が実演し、科学の不思議さや楽しさを伝え、科学への関心を高めるため、延べ715回実施した。 【実績】観覧者数16,990名 題材：４月～６月「のぞいてみよう、超低温の世界！」 ７月～10月「飛行機はなぜ飛べるの？」 11月～２月「マグネットの世界」 ３月　「いろいろかわる色が変わる」
ちょびっと サイエンス	科学への関心を高めるため、身近にある材料を利用した簡単な実験等を行い、解説員とのコミュニケーションを通して、科学の楽しさを伝えた。
実演展示 （テレビスタジオ、人工降雪装置、低温展示室等）	装置の動きや模型展示の仕組みでは伝わりにくい科学現象を、実演や解説により紹介した。
日曜実験室	実験を体験することによって、子どもたちの「科学する心」を養うため、延べ66回実施した。 【実績】参加者数827名 テーマ：４月　「イヤホンをつくろう」 ５月～８月　「水に溶けるってどんなこと」 ９月～12月「おもしろ磁石の実験」 １月～３月　「クロマト調査隊 2008～インクの秘密にせまる！～」
日曜工作室	工作を通して科学的動作原理、材料の利用、道具の正しい使い方等の習得と興味を喚起するため、述べ87回実施した。 【実績】3,890名 ４月～６月　「桜すこーぷ」「ハンググライダー」 「カラー風向計」 ７月～11 月「とびだせ！３Ｄ絵本『夏のわくわく絵日記』」「もみじスコープ」 「すすめ!!バッタくん」 「機械じかけのスズメバチ」 12月～３月「不思議なサンタＢＯＸ」 「ゆきみスコープ」「おさんぽペンギン」 「てけてけダイナさん」
移動科学館	教育普及活動の積極的な展開を図るため、来館が困難な小学校や聾学校などで科学教室を開催した。 また、活動の拠点を更に広げ、他団体の事業にも協力した。 【実績】１回57名（事業協力 13回　1,126名）

出前サイエンス	就学前の子どもが楽しみながら、科学に慣れ親しむことができるよう、幼稚園等へ出向き、科学に関する簡単な実演ショーなどを行う出前科学教室を開催した。 【実績】12 回　924 名
ちびっこワークショップ	就学前の子どもたちの科学の芽を育むため、遊びの要素を取り入れた実験等を行う親子向けワークショップを開催した。 【実績】14 回　573 組（1,017 名）

(エ) 講座・教室等

気象講座	気象学の啓発を図るため、平成 19 年７・８月に日本気象学会北海道支部との共催により、身近な気象現象や話題性のあるテーマについて、専門の講師が最新の研究・情報をわかりやすく紹介した。 【実績】受講者数 33 名 テーマ：①森林と気候のかかわり ②雪は「天からの手紙」か？ ③知って得する天気のはなし〜天気予報で病も攻略!? ④地震情報の最先端―緊急地震速報―
親子向け実験・工作教室	平成 19 年 11 月に、科学技術をより身近で親しみやすく感じられるように、親子で参加できる実験・工作教室を実施した。 【実績】14 組 28 名
中高校生による 科学教室	平成 19 年 10 月に、中学校・高校の科学クラブの研究成果の発表を中心とした中高校生による科学教室を実施し、科学クラブの支援を行った。 【実績】５校 44 名
大学生等による 科学教室	平成 20 年２月に、大学生等の科学研究を支援するため、大学・高専などと連携し、展示・実演・解説など大学生等による科学教室を実施した。 【実績】３校 96 名
環境科学展	平成 20 年２月に、市民の環境問題への意識を高めるため、企業などと連携し、環境問題と対策技術の現状などを紹介する事業を実施した。 【実績】2,990 名
先端科学技術講座	科学技術への理解を深めるため、平成 20 年３月に独立行政法人情報通信研究機構等の協力を得て、最新のロボットを紹介する講座を実施した。 【実績】観覧者数 1,000 名
工作技術競技会	平成 19 年５月に、工作を通して科学への興味を喚起するため、自分で作ったブーメランを使って行う競技会を実施した。 【実績】４回 75 名

(ｵ) 学校支援事業

総合的な学習の受入れ	児童生徒との質問応答のやり取りや職場体験を通して、学校側の科学に関する要望に限らず、進路学習的な受入れも行い、科学館での学習効果を上げた。 【実績】45 校 853 名受入れ
実験・実習セットの貸し出し	学校では準備が困難な実験・実習セットを貸し出し、学校の授業効果の向上に協力した。 【実績】９校 10 セット貸し出し
家庭教育学級の受入れ	札幌市内小学校の家庭教育学級を受入れ、児童と保護者が一緒に学ぶ場を提供し、家庭の教育力の向上に協力した。
教材教具の共同開発	理科嫌いの子どもたちをなくしていくために、学校と科学館が連携し、授業をつくりあげていくための教材や学習プログラムの開発に協力した。
教員研修	授業やクラブ活動に生かせる観察・実験の紹介や実習を中心に実施し、教材研究に協力した。 【実績】３回 51 名
博物館実習生の受入れ	大学からの依頼により、学芸員の資格取得のための博物館実習生を受入れ、指導した。 【実績】４期８名
インターンシップの受入れ	大学からの依頼により、インターンシップを受入れ、指導した。 【実績】１期１名

イ　天文事業の運営

プラネタリウムの機能を生かし、投影内容及び観覧環境の充実を図った。

(ｱ)　プラネタリウム

一般投影	天候や時間に関係なく星空を投影できるプラネタリウムを使って、星や星座を知る機会、天文学の初歩から最新情報までを学習する機会を提供した。 【実績】観覧者数　89,742 名／投影回数　1,315 回
学習投影	小中学校を対象に、理科授業の一環として実施した。学校の授業では理解することの難しい天体の動き、街中では見ることのできない満天の星空を疑似体験することで、天文への興味関心を喚起した。 【実績】観覧者数　市内小学校　105 回 193 校／15,332 名
夜間特別投影	季節あるいは新しい天文的話題をテーマとし、通常よりも掘り下げた内容の投影を行うとともに、通常の投影時間では鑑賞できない人への機会の提供のために実施した。 【実績】観覧者数　1,034 名／投影回数　６回
イブニング プラネタリウム	特別投影に加え、日中行っている一般投影を週末の夜間行うことにより、通常の投影時間では観覧できない人へ鑑賞の機会を更に拡大した。 【実績】観覧者数　335 名／投影回数　６回
字幕つき プラネタリウム	一般投影に字幕をつけることにより、聞きとりにくい方への鑑賞の機会を提供する。また、星の名前や用語などを視覚的に確認でき、学習理解を助ける投影を行った。 【実績】観覧者数　289 名／投影回数　５回
中学生向き 学習投影	学校等の利用がない夏休み期間中、中学生等を対象とし、天体の動き等の教科書の内容を学習する機会をつくった。 【実績】観覧者数　78 名／投影回数　２回

(ｲ)　天体観望事業

天体観望会	プラネタリウムの夜間投影に併せて、科学館駐車場において一般市民を対象に移動天文車を使った観望会を行った。 【実績】来場者数　305 名／実施回数　５回
移動天文台	天文台を利用する機会の少ない市民に、自分たちの住む地域で気軽に天体観望する機会を提供するため、移動天文車により各地へ出向き、天体観望を行った。 【実績】参加者数　2,195 名／実施回数　20 回
札幌市天文台 夜間公開	天文に対する興味・関心を高め、科学への夢を育むため、都心近接の立地条件を活かして多くの市民に天体観望の機会を提供した。 【実績】利用者数 1,405 名／実施回数　32 回

(ｳ) 共催事業

a 道民の森観望会（共催：財団法人北海道森林整備公社 道民の森）

平成 19 年５月と８月と 10 月に、当別町にある道民の森と共催で実施した。札幌市内では見られない星雲などの淡い天体を見る機会を提供した。

【実績】参加者数 １回目 53 名／２回目 133 名／３回目 25 名

b「宇宙の日 作文・絵画コンテスト」（共催：財団法人日本宇宙フォーラム）

「宇宙の日（９月 12 日）」を記念して、日本宇宙フォーラムとの共催により市内小中学生から宇宙に関する作文・絵画を募集し、展示・表彰した。

【応募数】作文　小学生 33 名・中学生 46 名

絵画　小学生 252 名・中学生 39 名

c さっぽろ星まつり（共催：（財）札幌市公園緑化協会前田森林公園）

市民の天文に対する興味・関心を深めるため、前田森林公園と共催で、平成 19 年９月に２日間にわたって天体観望会事業を実施した。

【実績】入場者数　2,200 名

（２）札幌市生涯学習センターの管理運営

札幌市の指定を受けて､市民の生涯学習に関わる活動を支援することを目的として、札幌市生涯学習センターの管理運営を適正に行った。

（支出額）377,480,837 円

ア　貸室事業

市民の幅広い学習活動を支援するため、ちえりあホールをはじめとした各種研修室を、それぞれの活動の場として提供した。

イ　施設の有効活用

学習成果の発表の場として展示スペースの無料開設、受験生等に対する学びの場として空き室の開放等、利用者のニーズに合わせた弾力的な運営を行った。

（３） 視聴覚センターの管理運営

札幌市からの委託により、視聴覚教育の推進、市民団体や学校等への学習支援を行うことを目的として、視聴覚センターの管理運営を適正に行った。

（支出額）38,426,729 円

ア　学習教材開発事業

提供教材の充実を図るため、学校教育及び社会教育の関係者等に教材制作を委託して、市販教材にはない、地域に密着した特色あるビデオ教材を制作した。

【実績】新規制作教材数 11 本

イ　視聴覚教材貸出事業

市内の小中学校をはじめ、幼稚園、児童会館、市立図書館、町内会及びサークル等の団体に対して、学習活動に役立つ 16 ミリフィルムやビデオ教材等の貸出しを行った。また、新らたに教材を購入し、利用促進と教材の充実を図った。

【実績】・教材貸出数：8,105 本

（内訳：幼稚園 352 本、小学校 4,829 本、中学校 1,292 本、
高校･養護学校 274 本、大学･専門学校 98 本、社会教育機関 1,260 本）

・新規購入教材数：10 本

6　収益事業

（寄附行為第 4 条第 6 号に掲げる事業）

（収入額）　20,514,976 円　（支出額）　15,210,858 円

（１）　売店・自動販売機事業（札幌市青少年科学館）

札幌市青少年科学館の管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的とした売店・自動販売機事業を行った。

（２）　レストラン・自動販売機事業（札幌市生涯学習センター）

札幌市生涯学習センターの管理運営に附帯する事業として、来館者への便益提供を目的としたレストラン・自動販売機事業を行った。